

田舎の存在価値は昔ながらの町並み、美しい自然景観があり、何千年にもわたり育まれてきた生活文化を感じられる場所があることだと思います。昔ながらの牟岐のまち、牟岐の田園風景を後世に残すことも私の大きな責務と思っています。

牟岐町には、保存したい多くの建物があります。殊に出羽島は、以前より阿波

3月定例議会の

議案の内容と審議

学会や文化庁から文化的価値のある漁村集落として認められています。従って、できるだけ早い時期に、出羽島を国の重要伝統的建造物群の指定を受けたいと考えています。

一方、近年の過疎化の進行により管理されていない空き家・空き地が増え、台風や地震時に周辺に危害を及ぼす危険性が増しています。そこで、空き家条例の

定例議会が3月8日から12日まで開かれました。

開会日には福井町長が条例改正案、補正予算案、新年度予算案などの提案説明を行いました。また、議員から会議規則改正案1件の趣旨説明が行われました。

再開日には5名の議員が一般質問に立ち、公共施設の跡地利用、観光物産館の運営、観光の取り組み、米軍機低空飛行訓練、町職員のボランティアなどについて論議されました。

そして、町長提出の条例案などの議案31件が可決され、議員提案の会議規則改正案1件を可決しました。

制定により、土地建物の所有者に、自分の不動産の適正な管理の必要性を啓発するとともに、危険な空き家については、町でも解体撤去が可能となるよう、取り組みたいと考えています。

3番目に、教育を中心とした町づくりです。3月10日に、統合小学校及び統合保育園が落成します。県内初の保育園と小学校、中学校の連携・一貫校、市宇ヶ丘学園が誕生します。

今、日本の教育現場では、いじめが大きな問題となっています。物質的に豊かになった日本でも、精神的には決して豊かになっていない、他人の痛みが分からない自分本人の人が少なからず居ることが、いじめが無くならない直接の原因であり、現在の日本の社会と教育の最大の不備であると思っています。

今後、牟岐町では、保小・中一貫校のメリットを最大限に生かすための取り組みや、子ども達の社会でもいじめがあることを前提とした取り組みを、教育委

員会と教育現場、更には役場においても実施していくつもりです。年長者が年少者と交流を深める中で、いじめのない明るく楽しい希望に満ちた教育環境をつくり、市宇ヶ丘学園が素晴らしい教育の場となるよう、また、子ども達をとりまく社会環境も一層良くなるよう、各種対策を模索していきます。

4番目は財政問題です。先の東日本大震災を契機として、牟岐町においては、大型事業の実施により、今後財政状況がより厳しくなることが予想されます。更に、少子高齢化、過疎化の

急速な進行により、税収も次第に落ちてきます。このような中で、できる限り健全な財政運営をしていくために、今後、機会あるごとに、歳出を見直す必要があると考えています。

これらの課題に対して、多くの住民が傍観者では問題は解決しません。できるだけ多くの方にご参加いただき、みんなの問題として、課題解決に向けた取り組みを、着実に計画的に行っていくなければなりません。我々の子孫のためにも、未来に希望を持ち、一丸となって取り組んでいきたいと思っています。



牟岐小学校校舎の一般公開